

スーパーマーケット販売統計調査資料

2018年1月実績 速報版(パネル 270)

12月実績 確報版(パネル 270)

2017年 年間集計確報版

(2018年2月21日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2018年2月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2018年1月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	88,726,848	100.0%	102.5%	100.9%
食品合計	79,343,457	89.4%	103.0%	101.3%
生鮮3部門合計	31,388,529	35.4%	104.2%	102.5%
青果	12,823,550	14.5%	107.4%	105.7%
水産	7,984,006	9.0%	101.0%	99.4%
畜産	10,580,973	11.9%	103.0%	101.1%
惣菜	8,916,011	10.0%	104.0%	101.5%
日配	16,843,540	19.0%	102.3%	100.9%
一般食品	22,195,377	25.0%	101.6%	100.0%
非食品	6,964,426	7.8%	99.4%	98.8%
その他	2,419,010	2.7%	95.5%	96.6%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,974,415	43	102.5%	100.2%
関東地方	32,400,952	73	103.4%	101.8%
中部地方	10,855,416	53	101.9%	100.4%
近畿地方	19,768,638	44	101.8%	100.8%
中国・四国地方	8,651,544	34	101.3%	98.9%
九州・沖縄地方	5,075,883	23	101.8%	100.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	689,301	45	99.0%	99.0%
4~10店舗	3,805,490	72	101.6%	100.1%
11~25店舗	9,999,770	65	101.2%	99.0%
26~50店舗	15,141,398	44	101.7%	100.3%
51店舗以上	59,090,890	44	103.0%	101.4%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	86,252,484	
総店舗数 (店舗)	7,903	店舗平均月商 (万円)	11,227	
総売場面積 (㎡)	13,146,760	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年2月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2017年12月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	104,958,731	100.0%	102.3%	101.0%
食品合計	93,665,540	89.2%	102.7%	101.2%
生鮮3部門合計	36,596,587	34.9%	103.7%	102.1%
青果	14,196,627	13.5%	104.8%	103.4%
水産	10,232,775	9.7%	101.6%	100.2%
畜産	12,167,185	11.6%	104.0%	102.3%
惣菜	10,373,911	9.9%	103.1%	101.0%
日配	19,396,885	18.5%	102.1%	101.0%
一般食品	27,298,157	26.0%	101.6%	100.3%
非食品	8,116,675	7.7%	101.0%	100.6%
その他	3,176,559	3.0%	97.1%	97.4%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	15,446,921	43	102.2%	100.6%
関東地方	38,759,841	73	103.1%	101.6%
中部地方	12,869,253	53	102.1%	100.5%
近畿地方	21,452,183	44	101.8%	100.9%
中国・四国地方	10,425,628	34	101.0%	99.9%
九州・沖縄地方	6,004,905	23	101.7%	100.8%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	879,773	45	99.5%	99.5%
4~10店舗	4,749,149	72	101.2%	99.8%
11~25店舗	12,172,352	64	101.8%	99.9%
26~50店舗	19,144,068	45	101.2%	100.1%
51店舗以上	68,013,390	44	102.8%	101.5%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	102,258,289	
総店舗数 (店舗)	7,908	店舗平均月商 (万円)	13,272	
総売場面積 (㎡)	13,150,830	売場1㎡あたり売上高 (万円)	8.0	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年2月21日

日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2017年実績（パネル270）確報版

	全店売上高（万円）	構成比	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
総売上高	1,064,720,447	100.0%	101.0%	99.6%
食品合計	949,272,225	89.2%	101.3%	99.8%
生鮮3部門合計	361,785,942	34.0%	100.8%	99.1%
青果	146,270,763	13.7%	99.9%	98.4%
水産	93,141,233	8.7%	98.9%	97.3%
畜産	122,373,945	11.5%	103.4%	101.6%
惣菜	107,088,665	10.1%	102.1%	100.1%
日配	205,338,354	19.3%	101.3%	100.0%
一般食品	275,059,264	25.8%	101.6%	100.2%
非食品	80,189,305	7.5%	99.0%	98.8%
その他	35,258,917	3.3%	97.1%	97.4%

エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
北海道・東北地方	148,609,376	43	101.0%	99.8%
関東地方	392,227,144	73	101.5%	100.4%
中部地方	131,012,248	53	101.2%	98.8%
近畿地方	229,983,755	44	100.3%	99.3%
中国・四国地方	106,068,297	34	100.2%	97.9%
九州・沖縄地方	56,819,627	23	100.6%	99.6%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
1～3店舗	9,099,539	47	97.4%	97.1%
4～10店舗	44,422,114	68	99.8%	98.5%
11～25店舗	123,615,502	66	100.3%	99.0%
26～50店舗	198,977,115	46	100.2%	98.8%
51店舗以上	688,606,177	43	101.4%	100.1%

※保有店舗数カテゴリーは2016年1月時点での保有店舗数による分類

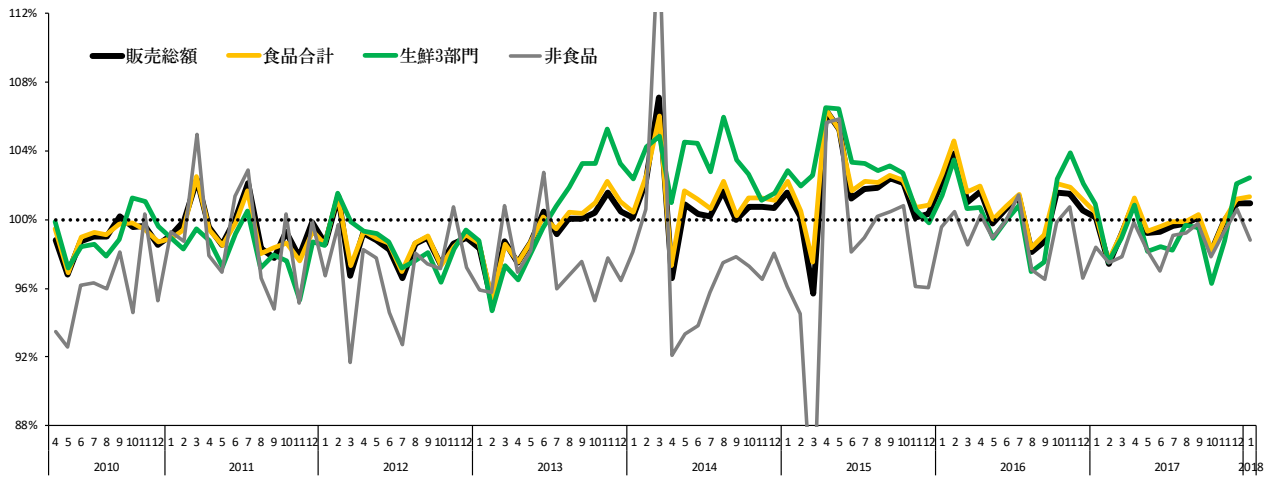
集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	1,036,217,121
----------	-----	-------------	---------------

※売上高は税抜金額

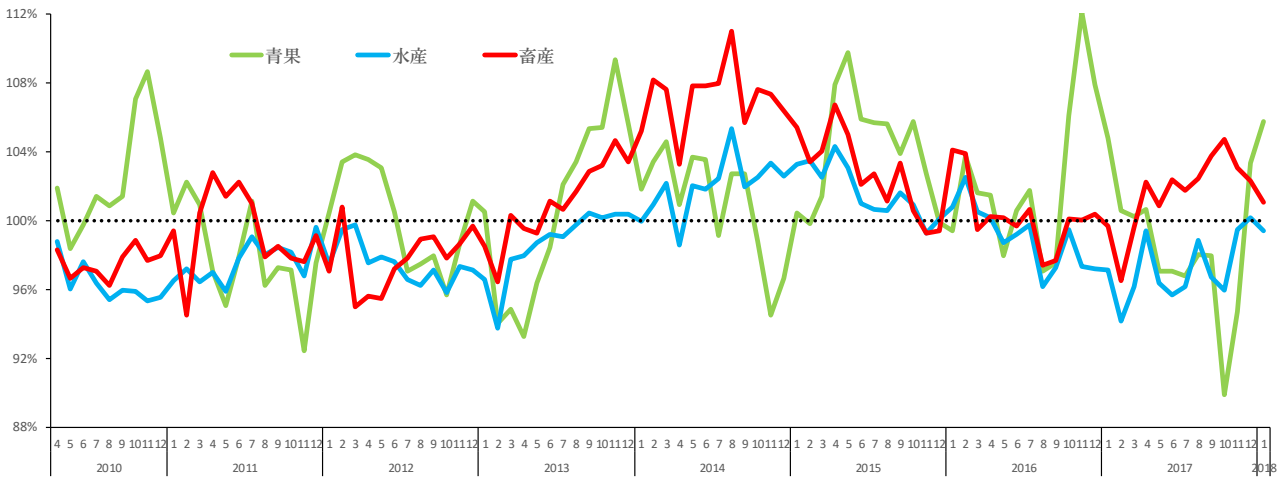
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2010年4月～

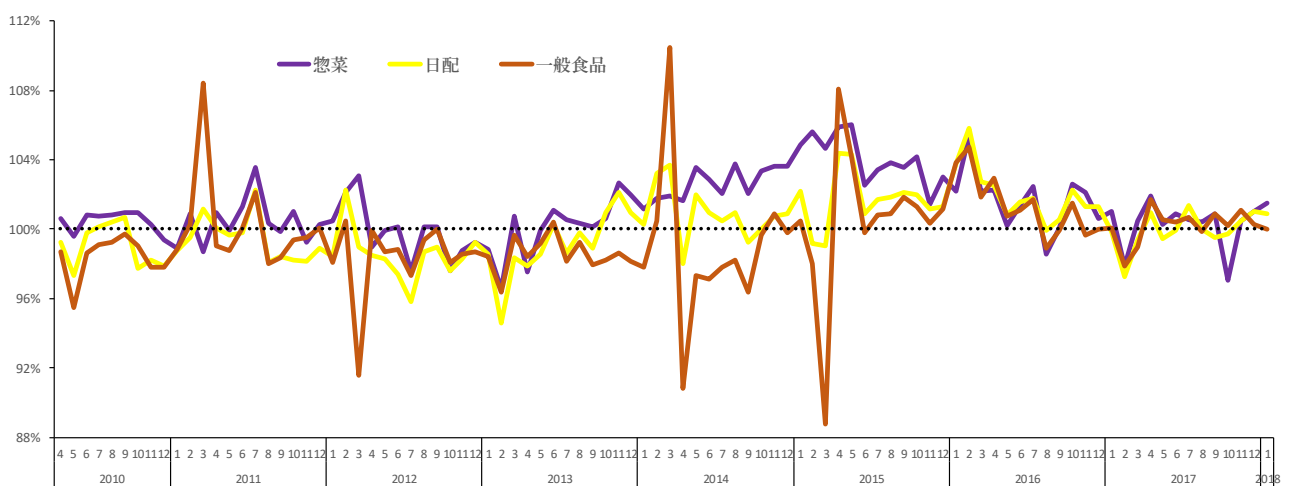
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2017年12月までは確認版による前年同月比、2018年1月は速報版による前年同月比

2018年1月エリア別気候状況

1. 月の気温：東・西日本で低かった。北日本と沖縄・奄美では平年並だった

上旬：北日本ではかなり高かった。東・西日本と沖縄・奄美で平年並だった

中旬：北・東日本で高かった

下旬：東・西日本でかなり低く、北日本で低かった

2017年1月との比較：北海道地方を除き、上旬と下旬はかなり低く、中旬は東日本を中心に前年より高くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2018年1月			2017年1月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	2.8	1.6	-0.8	0.7	-1.1	0.1	2.1	2.7	-0.9
東北地方	1.0	1.0	-2.1	1.9	-0.9	0.8	-0.9	1.9	-2.9
関東甲信地方	0.3	1.1	-1.8	1.0	-0.8	1.1	-0.7	1.9	-2.9
北陸地方	-0.2	-0.1	-2.0	2.1	-0.8	0.3	-2.3	0.7	-2.3
東海地方	-0.2	0.7	-2.0	1.6	-1.1	0.4	-1.8	1.8	-2.4
近畿地方	-0.2	0.5	-2.0	2.0	-0.9	-0.1	-2.2	1.4	-1.9
中国地方	0.1	-0.1	-2.2	2.2	-0.8	-0.2	-2.1	0.7	-2.0
四国地方	-0.4	-0.1	-2.2	2.1	-0.7	0.5	-2.5	0.6	-2.7
九州北部	-0.4	-0.1	-2.3	2.3	-0.5	0.3	-2.7	0.4	-2.6
九州南部・奄美地方	-0.2	-0.1	-1.6	2.6	-0.7	0.1	-2.8	0.6	-1.7

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

2. 月の日照時間：北・東日本日本海側、沖縄・奄美で少なかった。一方、東・西日本太平洋側で多かった

上旬：北・西日本と東日本日本海側で少なかった

中旬：東・西日本太平洋側でかなり多く、北日本と東日本日本海側、沖縄・奄美で多かった

下旬：北・東日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった

2017年1月との比較：上旬と下旬はやや少なく、中旬はやや多い日照時間となった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2018年1月			2017年1月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	53	108	76	120	94	92	-67	14	-16
東北地方	111	128	78	108	112	99	3	16	-21
関東甲信地方	109	115	104	115	104	120	-6	11	-16
北陸地方	73	133	54	133	87	106	-60	46	-52
東海地方	99	137	95	115	104	117	-16	33	-22
近畿地方	83	137	108	123	110	107	-40	27	1
中国地方	86	111	96	130	104	122	-44	7	-26
四国地方	93	114	100	112	109	125	-19	5	-25
九州北部	89	95	101	112	121	135	-23	-26	-34
九州南部・奄美地方	80	137	90	115	97	139	-35	40	-49

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

3. 月の降水量：北日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側と西日本、沖縄・奄美で多かった

上旬：北日本日本海側、東日本太平洋側、西日本で多かった

中旬：東日本と西日本太平洋側で多かった

下旬：沖縄・奄美でかなり多く、北日本で多かった

2017年1月との比較：上旬から中旬にかけてやや多く、下旬は多い地方と少ない地方があった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2018年1月			2017年1月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	136	94	119	29	77	102	107	17	17
東北地方	76	113	113	75	133	72	1	-20	41
関東甲信地方	132	96	78	186	46	21	-54	50	57
北陸地方	110	152	109	57	143	102	53	9	7
東海地方	199	88	52	125	65	54	74	23	-2
近畿地方	172	123	55	133	69	95	39	54	-40
中国地方	138	105	75	61	106	145	77	-1	-70
四国地方	225	104	59	166	16	27	59	88	32
九州北部	202	120	64	180	30	66	22	90	-2
九州南部・奄美地方	195	73	76	165	53	26	30	20	50

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

気象庁ホームページ・報道発表資料「1月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年~2010年）の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2018年2月調査結果（1月実績）
（2018年2月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

2月調査（1月実績）結果概況

景気判断DIは小幅に悪化も、大幅に改善した前月水準は維持

1月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は前月から-1.6の47.0、見通し判断は前月から-0.7の45.2となり、どちらも小幅な悪化となった。

経営動向調査では、売上高DIが-5.0とやや低下、収益DIは-4.5と前月と変わらずだった。青果相場が高騰したことで生鮮仕入原価DIが16.9と高止まりしており、客単価DIが6.4とプラスを維持していることが追い風となったが、一方で降雪や気温の低下により来客数DI-11.9とマイナス幅を拡大したことが重しとなった。

カテゴリー動向調査では、相場高騰した青果DIが13.4と前月から大きく上昇した。それ以外のカテゴリーDIはすべてマイナスとなったが、これは前年より低い気温により動きがよい商品がある一方で、降雪の影響や野菜相場高騰が鍋需要を減少させた地域もみられた。そのため、地域によって好不調の判断にばらつきが大きい月となった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、景気判断DIが現状、見通しともに前月よりやや悪化しているが、小幅な動きにとどまっている。そのため、前月プラスに転換した移動平均線に大きな変化はみられていない。（周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

生鮮相場高騰による客単価上昇が来客数減をカバーした形となり、景況感は大幅に改善した前月水準をほぼ維持する結果となった。近年相次ぐ異常天候は、例えば降雪予報による買いだめ需要発生や夕方時の来客数の減少など販売に大きな影響があり、柔軟な対応力が求められる。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：47.0 (-1.6) 前月：48.6	消費者購買意欲DI 当月：45.6 (-2.8) 前月：48.6	周辺地域 競合状況DI 当月：42.7 (+0.4) 前月：42.3	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：47.3 (-2.1) 前月：49.4
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：45.2 (-0.7) 前月：45.9	消費者購買意欲DI 当月：45.7 (-0.9) 前月：46.6	周辺地域 競合状況DI 当月：41.5 (+0.4) 前月：41.1	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：47.0 (-1.1) 前月：48.1
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-5.0 (-2.1) 前月：-2.9	客単価DI 当月：6.4 (-0.3) 前月：6.7	来客数DI 当月：-11.9 (-3.2) 前月：-8.7	
収益DI 当月：-4.5 (±0) 前月：-4.5	販売価格DI 当月：6.3 (+1.1) 前月：5.2	生鮮品仕入原価DI 当月：16.9 (+1.9) 前月：15.0	食品仕入原価DI 当月：2.3 (-1.4) 前月：3.7

カテゴリー動向

青果DI 当月：13.4 (+9.1) 前月：4.3	水産DI 当月：-8.1 (-4.6) 前月：-3.5	畜産DI 当月：-3.2 (-10.9) 前月：7.7	
惣菜DI 当月：-0.6 (-1.0) 前月：0.4	日配DI 当月：-5.3 (-2.7) 前月：-2.6	一般食品DI 当月：-4.9 (-1.7) 前月：-3.2	非食品DI 当月：-10.6 (-3.0) 前月：-7.6

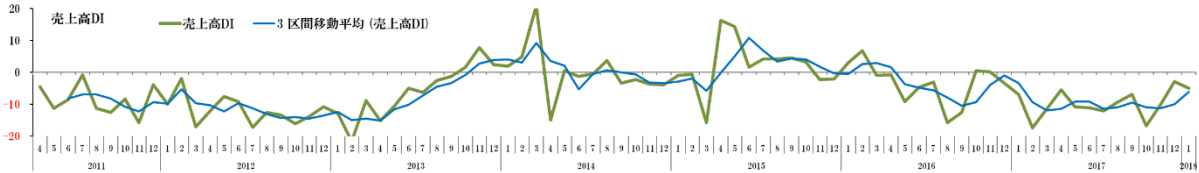
○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

2月調査（1月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

小幅なマイナス圏での推移が続く

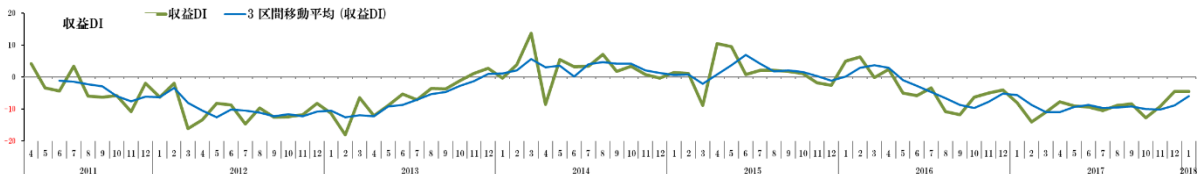
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	6.1	31.1	33.2	27.6	2.0	-2.9
売上高（当月）	6.1	32.3	38.4	22.0	1.2	-5.0



2. 収益DI

前月と変わらず小幅なマイナス圏での推移が続く

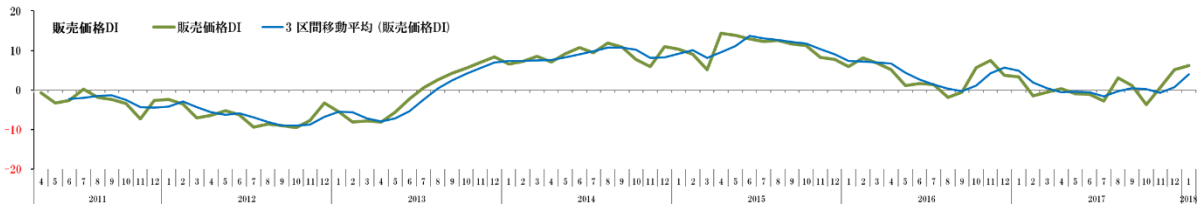
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	8.8	26.8	39.7	23.2	1.5	-4.5
収益（当月）	5.6	29.4	45.0	17.5	2.5	-4.5



3. 販売価格DI

プラスを維持し底堅く推移

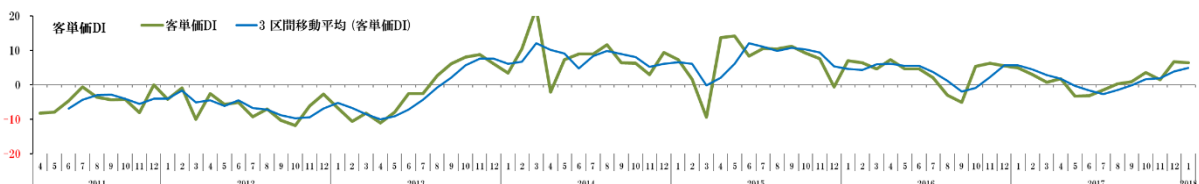
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	9.2	61.7	28.1	1.0	5.2
販売価格（当月）	0.0	8.5	59.1	31.1	1.2	6.3



4. 客単価DI

プラス幅を維持し底堅く推移

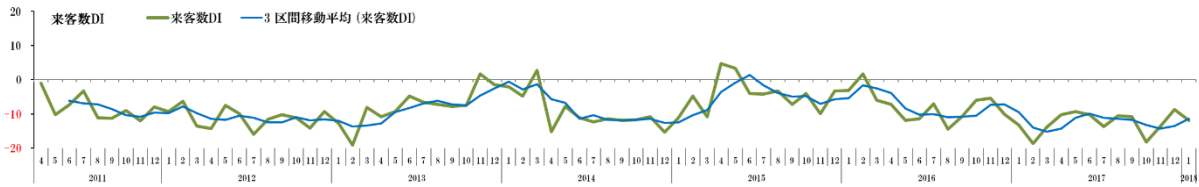
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.0	15.5	42.8	41.2	0.5	6.7
客単価（当月）	0.6	14.0	45.1	39.6	0.6	6.4



5. 来客数 DI

再び二桁マイナスとなり低迷続く

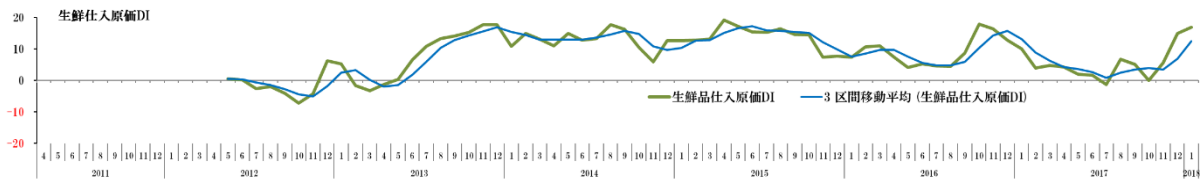
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	8.2	39.8	31.6	19.4	1.0	-8.7
来客数 (当月)	8.5	42.7	37.2	11.0	0.6	-11.9



6. 生鮮仕入原価 DI

2ヵ月連続で二桁のプラスを記録

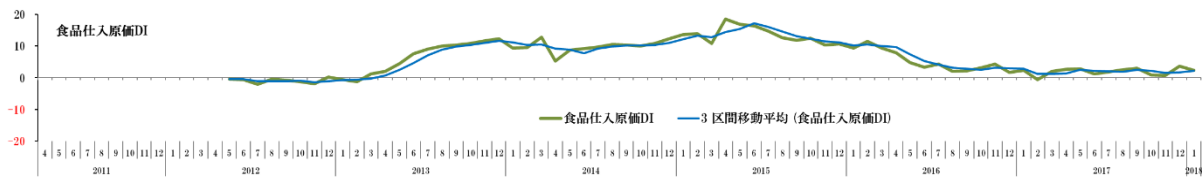
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.0	5.7	33.2	52.3	7.8	15.0
生鮮仕入原価 (当月)	0.6	5.0	29.8	55.3	9.3	16.9



7. 食品仕入原価 DI

わずかなプラス域で横ばいでの推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.1	8.2	64.1	24.1	1.5	3.7
食品仕入原価 (当月)	3.1	5.6	71.4	18.6	1.2	2.3

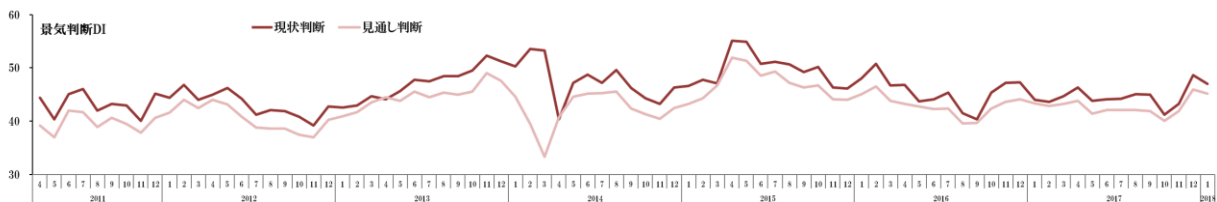


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共にやや悪化も堅調に推移

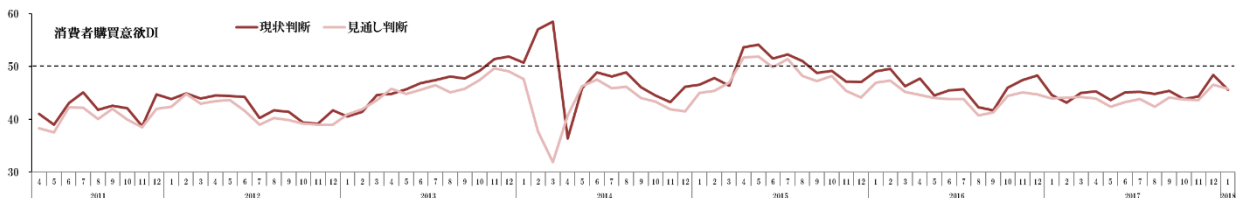
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	2.0	19.7	61.6	15.2	1.5	48.6
【現状】景気判断 (当月)	0.6	20.0	70.9	7.9	0.6	47.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	2.0	23.9	62.4	11.7	0.0	45.9
【見通し】景気判断 (当月)	1.8	24.2	66.1	7.3	0.6	45.2



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共にやや悪化も堅調に推移

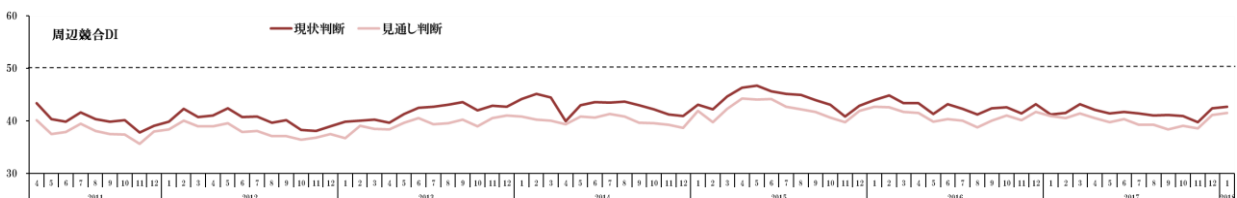
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.5	18.7	68.2	12.1	0.5	48.4
【現状】購買意欲 (当月)	0.0	23.8	70.7	4.9	0.6	45.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.5	19.7	72.7	7.1	0.0	46.6
【見通し】購買意欲 (当月)	0.0	22.6	72.6	4.3	0.6	45.7



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に改善も横ばいでの推移

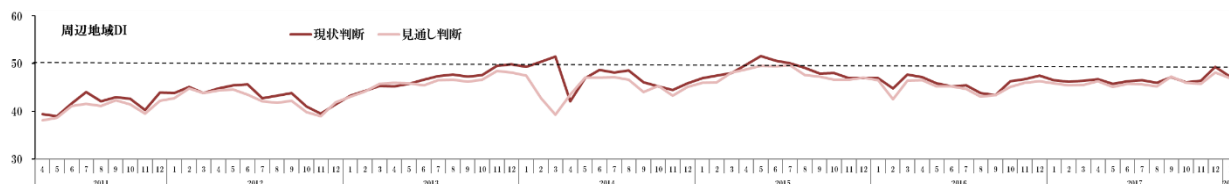
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.0	25.1	71.4	0.5	0.0	42.3
【現状】競合状況 (当月)	1.2	29.3	67.7	1.2	0.6	42.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.0	25.6	69.3	0.0	0.0	41.1
【見通し】競合状況 (当月)	3.0	29.9	65.9	0.6	0.6	41.5



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

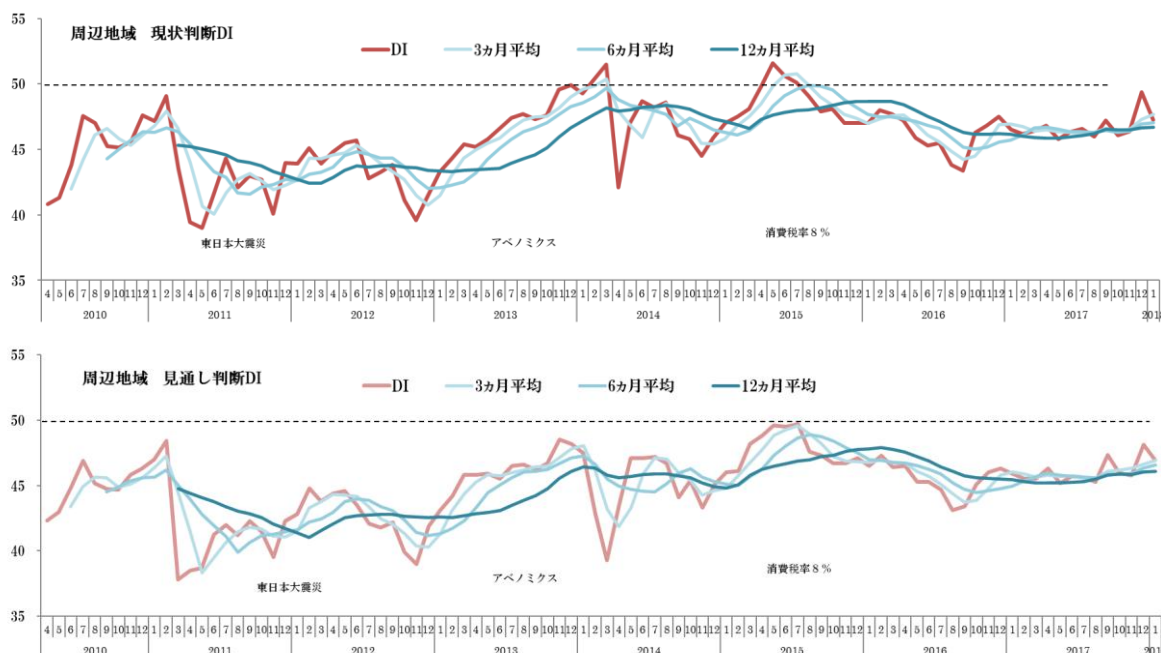
現状判断、見通し判断共に小幅に悪化するも堅調に推移

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.5	7.5	85.9	6.0	0.0	49.4
【現状】地域景気 (当月)	0.0	14.0	82.9	3.0	0.0	47.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.0	9.0	86.4	3.5	0.0	48.1
【見通し】地域景気 (当月)	0.0	15.2	81.7	3.0	0.0	47.0



長期傾向 (2010年4月～)

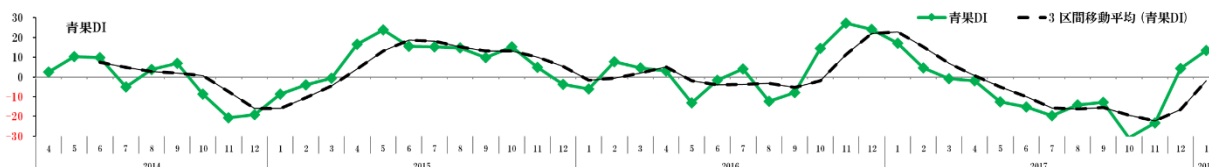
2012年11月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5月に一旦持ち直したものの、6月～8月まで横ばい推移、9月に再び悪化した。その後、年末から6ヵ月連続で改善し、2015年5月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。これをピークに6月以降悪化傾向が続き11月は下落の速度が早まった。12月～2月は横ばいで推移したものの、2016年3月以降悪化をみせ、8月には大きく下落した。直近9月に下げ止まりをみせ、12月まで小幅な改善が続いた。2017年に入り12ヵ月移動線付近で下げ止り、横ばい推移が継続していたが、12月に大幅な改善をみせすべての移動線がプラス転換し、その後も堅調に推移している。



Ⅲ. カテゴリー別動向

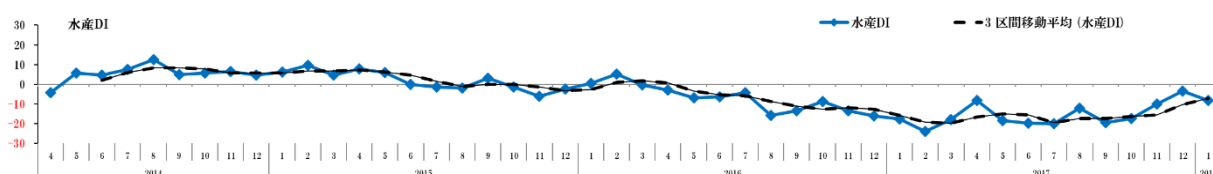
1. 青果DI：13.4（好調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	6.5	22.6	26.9	35.5	8.6	4.3
青果（当月）	2.5	12.7	28.0	42.0	14.6	13.4



日照不足や気温の低下により大根や葉物を中心に野菜相場が高騰したことで、一品単価が大きく上昇した。平年より低い気温により菌茸類など鍋物商材が総じて底堅く推移しが、価格上昇幅が大きい地域ではやや伸び悩んだ店舗もみられた。買上げ点数の減少を防ぐために、小分けにするなど値ごろ感を訴求する取り組みが目立った。野菜高騰の影響でカット野菜やセット野菜は好調となっている。国産果物ではみかんは好不調がわかれ、いちごは価格が落ち着き動き点数が増加している。柑橘類は価格が高騰しており好不調の判断がわかれている。

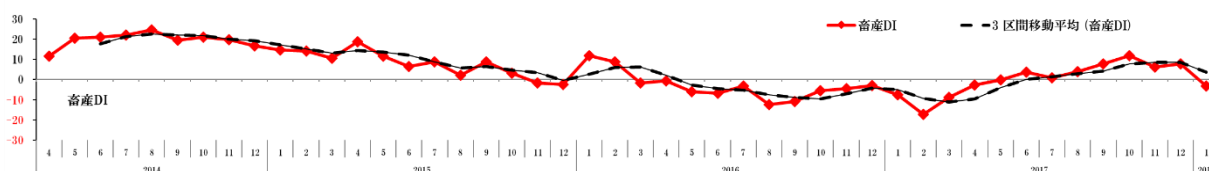
2. 水産DI：-8.1（やや不調）



引き続き近海魚は不漁による高値と品薄の影響で不調が続いている。気温の低下により鍋物関連のタラの切り身やカニは好調となった。前年ノロウイルスにより不調となったカキは反動も加わり好調となった。相場の安定している養殖ぶりは引き続き好調、正月用の刺身類は動きがよかったとする店舗が多かった。ちりめんは価格が高騰して数量を確保できた店舗では好調となった。アニサキス報道の影響が緩和してきたとのコメントがみられた。

3. 畜産DI：-3.2（やや不調）

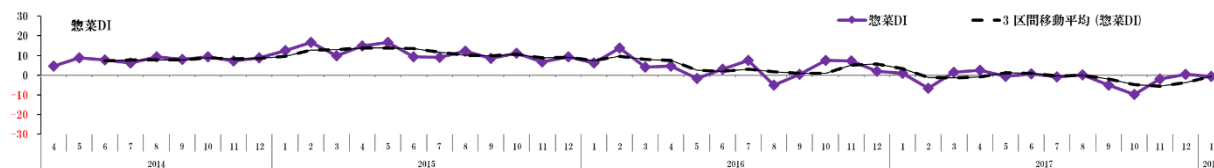
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	2.2	17.4	33.7	40.8	6.0	7.7
畜産（当月）	3.8	30.6	42.0	21.7	1.9	-3.2



牛肉の動向によりカテゴリー全体の好不調の判断がわかれている。一部に年始用の和牛や国産牛の動きがよかった店舗もみられるが、野菜価格高騰により鍋需要に影響を受けた店舗では輸入牛を中心に牛肉の動きが悪かった。国産豚肉は総じて不調とする店舗が多く、価格高騰の影響でバラ肉や切り落とし、輸入に切り替えたことで単価下落した影響を受けた店舗もみられた。

4. 惣菜DI：-0.6（やや不調）

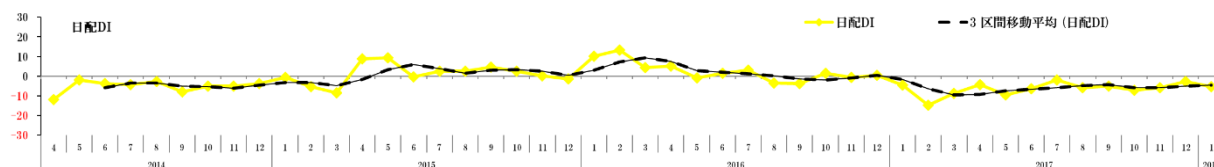
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	3.2	23.2	44.9	25.9	2.7	0.4
惣菜（当月）	3.8	22.4	48.1	23.7	1.9	-0.6



野菜の価格高騰によりサラダ類や和惣菜が好調となったが、気温の低下により伸び悩んだ店舗もみられた。保存がきかないカテゴリであり、降雪の影響による夕方の来客数減少の影響を受けた店舗では影響が大きく、好不調の販売にばらつきがみられた。旬の食材を活用した惣菜などの取り組みは好調となっている。

5. 日配DI：-5.3（やや不調）

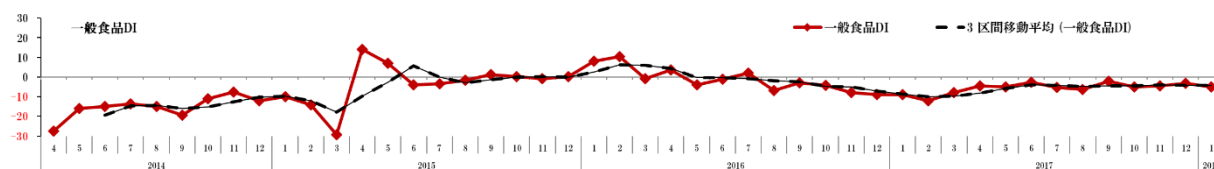
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	3.8	28.1	44.3	22.2	1.6	-2.6
日配（当月）	3.8	34.4	43.3	15.9	2.5	-5.3



気温の低下による鍋需要が高まった地域では和日配が好調となったが、降雪の影響や野菜の高騰により敬遠された地域では不振となるなど好不調に差がみられた。乳製品やデザート、飲料などの洋日配は不調とする店舗が多いが、インフルエンザ対策として機能性ヨーグルトは好調となった。引き続き報道により納豆は好調となった。降雪予報による買いだめ需要が発生し、パン類や冷凍食品に特需があった地域もみられた。野菜高騰により野菜ジュースや漬物が好調となった店舗もみられた。

6. 一般食品：-4.9（やや不調）

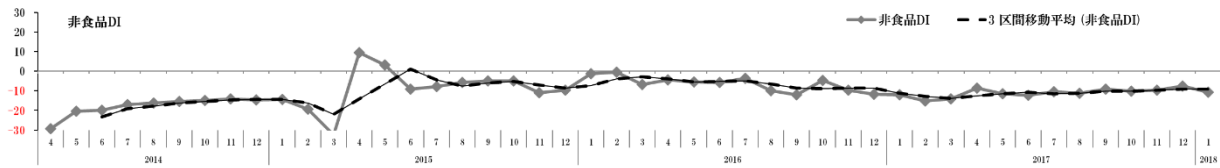
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	4.9	25.4	48.1	21.1	0.5	-3.2
一般食品（当月）	5.7	29.9	44.6	17.8	1.9	-4.9



一部地域では降雪に備えて、缶詰やインスタント麺など備蓄可能な買いだめ需要もみられた。前年より低い気温によりホット商材は好調に推移したが、降雪による来客数減の影響を受けた店舗もみられた。米類は比較的好調となっているほか、大袋菓子も動きがよかった。野菜の高騰によりドレッシング類は不調となった。他業態との競合の厳しさを指摘するコメントが多かった。

7. 非食品DI：-10.6（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	7.7	33.7	43.1	12.2	3.3	-7.6
非食品（当月）	11.1	34.0	43.8	8.5	2.6	-10.6



気温の低下によりカイロや入浴剤、インフルエンザ対策のマスクなどの動きがよくなっているが、タバコの落ち込みが続いているほか、ホームセンターやドラッグストアなどの価格競争の影響を大きく受けているとのコメントが多い。

カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2018年2月調査（1月実績）キーワードTOP3

1. 青果相場高騰
2. 気温低下
3. 来客数減（降雪の影響）

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

1月実績速報版 165社
 12月実績確報版 199社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp